

今回の表紙画像の桜は全て、当院の駐車場の桜を撮影しています。そして撮影に関するキーワードは「身近な幸せ」です。特別な桜の名所での撮影は目指さず、すぐ近くにある日常の平穏な幸せに感謝して毎日を過ごしていく、そのような心持を常日頃持っていたいと思っております。

ひがしの空から

〜幸せな人生へのお手伝い〜

CONTENTS

❁ 今、お伝えしたい事

院長 宇都宮健志

❁ 小児科待合室改修について

副院長 別府幹庸

送迎運転手さんのご紹介

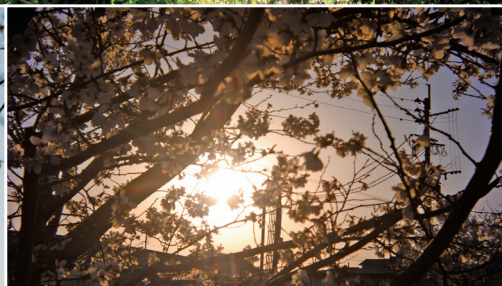
三重東介護サポートセンター三つ葉

介護支援専門員(ケアマネジャー)紹介

マイペット紹介

編集後記

表紙写真・文：飯尾 文昭 副院長



今、お伝えしたい事

院長 宇都宮 健志



皆さまこんにちは、院長の宇都宮です。思いも寄らぬ生活制限を強いられる事となった新型コロナウイルス感染症流行・蔓延から3年余りが過ぎました。この間、単に生活に不自由さを強いられただけでなく、流行初期には病気になるものへの情報不足・理解不足から感染への過剰な警戒・他者への疑心暗鬼・極端な生活活動制限による運動機能の低下など、心身共に消耗させられてしまいました。また、実際に全国で7万人以上の方々が新型コロナウイルスに感染して命を奪われる結果となっており、ご本人・ご家族の無念さを思うと、本当に残念でなりません。現在、ワクチンによる重症化予防対策およびウイルス変異などの結果、全体的な傾向として罹患時の症状が極めて軽微になり、逆にその事をご自身の罹患への関心を低下させ、感染リスクは増大してしまっています。

でも私は結果としてそれで良いと考えています。罹患後の重症化リスクは明らかに低下しているのですから。ま

た、私は流行初期から始業前の時間を利用して、このウイルスを正しく理解して、適切に感染リスクを低減するように努め、過剰に怖がらない事の大切さをお伝えして参りました。①マスク着用による自身からの何らかの感染源の飛散防止②こまめな手指の洗浄・消毒③定期的な換気、が感染防止の為に最も確率の高い事。一般的な肺炎による死亡者数・喫煙による死亡者数・交通事故年間死亡者数など、新型コロナウイルス感染による死亡者数を遥かに凌駕する数値であり、報道などの不確かな情報を鵜呑みにして生活を振り回される事の無いよう、お伝えして参りました。

一方で、私共医療機関従事者もこれまでの診療の在り方を考え直さなければいけない事態に直面致しました。流行当初の数ヶ月に限っては、不安を煽る過剰な報道の影響もあり、受診控えの時期もありましたが、その後は、①通常診療の維持に加え②発熱外来対応③ワクチン接種体制の維持と、医師のみならず受付・事務・看護・検査など全てのスタッフに尋常でない業務負荷をお願いせざるを得ない3年間を過ごして参りました。私自身は、通常の診療において、この業務負荷の中、お一人お一人の患者さんとの大切なお時間を焦りのためにおざなりにしてしまっていたのかもしれないと、一日の診療を終えるたびに反省を繰り返す日々でした。とは言え、新型コロナウイルス感染症

が雨散霧消したわけではありません。また、どこで未知の感染症を拡散させてしまうかも判りません。今後も感染症を拡散させない対策は怠る事が出来ません。(既に小児科では既存の待合スペースを改築して、屋外のプレハブ診療室を撤去致しました)どうか皆様にはその事をご理解頂き、感染症対応へのご協力をお願いしたいと存じます。

その上で、私たちは今後も皆様がこれまで同様、健康で幸せな日々をお過ごし頂く為の努力を惜しまず提供して参りたいと考えています。心配事があればいつでも足をお運び頂き、ご相談下さい。しっかりと話をお伺いして、適切に検査・治療をご提供致します。

その為に必要な検査機器は十分に整えています。3年前から木崎医師が新たに加わり、循環器疾患への対応能力は格段に厚みを増したと自負しています。既に少なくない患者さんが、虚血性心疾患・心房細動・心臓弁膜症の専門医療機関での治療に繋いで頂いています。昨年4月からは、大腸内視鏡検査充実の為、大分大学消化器内科から診療応援にも来て頂いています。また、従来、飯尾医師を中心に増え続ける認知症患者さんへの対応も行ってきましたが、今後はその予防・リスクの検出なども行える

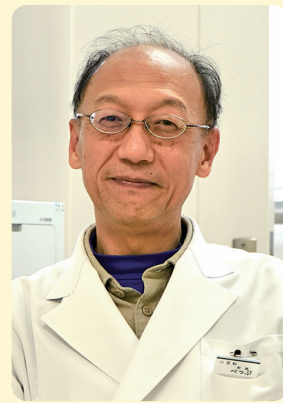


よう、準備を進めています。話は少し戻りますが、CT・MRI・超音波・骨密度・呼吸機能・睡眠時無呼吸などの検査機器については、広く地域の皆様に活用して頂きたいとも考えています。当院かかりつけでない方でも、主治医の先生とご相談の上、ご自身の健康維持・早期発見・早期治療の為にご利用頂ければ幸いです。

当院も開院から十二年半を経過し、徐々に通院が難しくなる患者さんも増えて参りました。以前にもご案内致しましたが、当院では訪問診療も行っています。訪問看護ステーションさん・ケアマネジャーさんほか、医療・介護・福祉など多職種の方々の皆さんと連携して、患者さんだけでなく、ご家族も含めて望まれる人生を送る為のお手伝いをさせて頂いています。もし宜しければ、ご家族の中で通院が出来なくなったら、また命に関わる重大な病気にかかってしまったら、どのようなに過ごしたいか、その中でどのような医療・介護支援を受けたいか、本音でご相談なさってみては如何でしょうか。そして必要であれば、私たちにもご相談頂ければと存じます。

どうか皆さんの人生が充実したものになるよう、私たちのクリニックをご利用下さい。皆様の人生にそっと寄り添い、幸せにお過ごし頂くお手伝いが出来ましたならば、それが私たちの喜びであり、存在意義であろうと思っています。

副院長 別府 幹庸

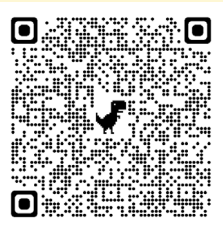


2019年冬に中華人民共和国・武漢市にて発生したCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）は、瞬く間に世界中を席卷し、多くの死者、感染者を出し続けています。当初、ワクチンも治療薬もなかったこの恐ろしい新興感染症でしたが、有効なメッセンジャーRNAワクチン、有効性の確認出来る治療薬などが次々と開発され素早く臨床に応用されたため、感染による死亡率は現在、季節性インフルエンザとほぼ同等レベルまで低下しました。諸外国はマスクなどの規制を既に撤廃していますが、我が国も3月13日以降、マスク着用の判断を個人に委ね、5月8日には感染症法上の分類を第2類から第5類と季節性インフルエンザと同様の扱いにするべく動いているところです。

この未曾有の災禍から私達は多くのことを学びました。その中でも『日常の診療の中で感染を防ぐためにはどうすればよいか?』という問いに関しては、いつもいつも考えを巡らせていました。新興感染症であり感染力はかなり強いことがわかっていました。サージカルマスク、手袋だけでは不十分で、目を護るためのアイシールド、フェイスシールドが必要ということが早い段階でわかりました。また、気道に関する処置時に発生するエアロゾルは極めて高率に感染成立させることが報告されました。小児科においても吸入療法などで激しい咳嗽がある場合などは、かなり危険であると認識されました。当クリニックでは、そのような情報を吟味した結果、COVID-19の可能性がある患者さん達は基本的に建物外の自家用車で診療する。（これは換気が極めて良好になることを意味します）N95マスク、ガウン、フェイスシールド、手袋を使用して診療し、診察ごとに防護衣は着替えることとしました。屋外にプレハブを設置し、そこを基点として建物外での診療を展開しました。

おかげさまで、コロナ禍始まって以来、当クリニックでは施設内感染とおもわれる症例は経験していません。

いままで、プレハブを利用して建物外での診療を展開してきましたが、今後のことを考えて屋内に独立した3つの診察室を作り、感染の疑いのある患者さんはそのでの診療を行うことにしました。この診察室は、各々に換気設備があり、計算上3分間で外気と入れ替わります。COVID-19はエアロゾル感染を起こし、感染を予防するためには換気が必要ですが、この診察室を使えば理論上、3分以上の間隔をあけて診察を行えば、患者さんの間での感染は起こらないと考えられます。ただ、外気を導入して換気を行いますので、冬は寒く、夏は暑いのです。ご不便をかけますが、外気温で大丈夫な格好で御来院いただければ幸いです。



小児科発熱外来出入口の動画はコチラ

送迎運転手さんのご紹介



三重県クリニックでは、定期通院されている方で、ご自身での通院が困難な方をサポートするため送迎サービスを行っています（条件あり）。患者様の診察予約時間に合わせ、お迎えに行き、診察終了後はお自宅までお送りする、今回はそんな送迎サービスの担当しているクリニックの運転手2人の紹介です。

患者様を安全第一で送迎しているのが、深田運転手（右）と廣瀬運転手（左）です。2人も安全と親切心をモットーに、毎日業務を頑張っています。

（Q）送迎で一番気をつけているところはどこですか？

いろいろありますが、一番はやはり安全運転をするということです。お迎えの時間が重なった場合など少し焦ることもありますが、常に平常心で運転することを心掛けています。（深田）

（Q）患者様を送迎すると言ったことはなかなか大変なお仕事ですね？

運転ミス等で患者様に怪我をさせてしまわないように、常に細心の注意が必要な業務です。無事に送り届けたときに「いつもありがとう」と言ってもらえるのが一番のモチベーションになります。（廣瀬）

これからも患者様のために安全運転で頑張ります。

注）送迎サービスをご希望の方は、主治医に相談ください。

三重東介護サポートセンター三つ葉
介護支援専門員(ケアマネジャー)紹介



三重東介護サポートセンター三つ葉

首藤 靖子 (しゅとう やすこ)

- 主任介護支援専門員
- 豊後大野市三重町在住
- 取得資格等
- 正看護師 福祉住環境コーディネーター(2級)
- 趣味 ドライブ 温泉巡り

「ひとこと」

多くの人が、加齢に伴う健康面や生活に不安を抱えています。介護保険では、ご本人やご家族の意向(これからの生活をどうしたいか)をお尋ねし、様々な介護保険サービス(共助)と、ご自身の力(自助)、ご家族・ご近所のサポート(互助)、行政の福祉事業(公助)を組み合わせ、医療との連携を図りながら生活できるようお手伝いをしています。介護に関するご相談がありましたら、お気軽にご連絡ください。

(TEL 0974-22-7715)

マイペット

看護師 山内 登代美

わが家には7歳の猫がいます。名前は「うり」といいます。自宅倉庫に出没し悪さをするネズミを退治するという使命を果たすためやってきました。生後2ヶ月の頃から一緒に生活を始め、時々ネズミをとって来るようになりました。そこは褒めるべきことなのですが、わざわざ家の中に持って入ってくるのです。その獲物をみている度に驚かされ、誰が片付けるかのなすり合いになるので、今のところ息子が主人がやってくれています。

うりは使命をきちんと全うしている以上に、家族に癒やしを与えてくれます。うりの姿が見えないと探し回り、側にいるだけで嬉しい気持ちになります。子供たちが反抗期の頃、うりにだけは見せるなんとも言えないやさしい表情を、そつとのぞき見しては安心していたことを思い出します。これからは怪我や病気をせずに出来るだけ長く一緒にいたいと願っています。



編集後記

今年も燕が飛来する季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられることが決定しています。この3年間通常診療に加え発熱外来やワクチン接種等行っていました。時間的制約や予約枠等で皆様のご要望に応えられなかった点につきましてお詫びしたいと思います。2月16日から小児科につきましては、発熱外来は院内で診療ができるよう改修しております。ただし、ご要望に応じて以前のように入用車内での診療希望がある場合など状況に応じて対応しておりますので、随時ご相談ください。

インターネットの普及や報道等で情報があふれ、社会情勢も踏まえ「変化」に順応していく事が求められています。その中で三重東クリニックでは、「変化」に順応しつつも「志」を含め重要な変化しないものに合わせ変化する事で幸せな人生へのお手伝いができると思っております。

(後藤)



広報誌『ひがしの空から』

発行：社会医療法人 関愛会 三重東クリニック
〒879-7104 大分県豊後大野市三重町小坂4109-61
Tel. 0974-22-6333 Fax. 0974-22-6341

